

第 87 回「山形県内企業の景気動向調査」確報

(令和 8 年 5 月調査)

～景況感は引き続き改善も、先行きは大幅悪化の見通し～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲1.8（前回調査比 1.4 ポイント上昇）と **3 期連続改善**となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」は改善となり、「売上高」はプラスに転じた。「人員・人手」はプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲2.7（前回調査比 11.7 ポイント下落）、製造業が▲3.0（前回調査比 4.5 ポイント上昇）、卸・小売業が▲2.3（前回調査比 12.5 ポイント上昇）、サービス業が 1.2（前回調査比 1.5 ポイント下落）と、**製造業と卸・小売業は改善、建設業とサービス業は悪化**となった。なお、建設業は 5 期ぶりに D I 値がマイナスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が 1.2（前回調査比 2.3 ポイント上昇）、村山北部が▲10.4（前回調査比 1.4 ポイント上昇）、最上が 3.5（前回調査比 5.3 ポイント下落）、置賜が▲25.6（前回調査比 9.8 ポイント下落）、庄内田川が 4.2（前回調査比 13.5 ポイント上昇）、庄内飽海が 6.0（前回調査比 2.2 ポイント下落）と、**村山南部、村山北部、庄内田川の 3 地域は改善、最上、置賜、庄内飽海の 3 地域は悪化**となった。村山南部、庄内田川では D I 値がプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲19.0（今回調査比 17.2 ポイント下落）と **大幅な悪化の見込み**となっている。

【 特別調査 】

- **夏季ボーナスの支給動向**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 65.2%と、前年に比べ 3.6 ポイント上昇し、引き続き 6 割を上回った。
- **春季以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 65.5%と前年に比べて 1.3 ポイント上昇し、引き続き 6 割台となった。

令和 8 年 6 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最 上	14
④ 置 賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 夏季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
2. 春季以降の賃金改定動向について	23
<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>	24
<参考資料Ⅱ：調査の概要>	24

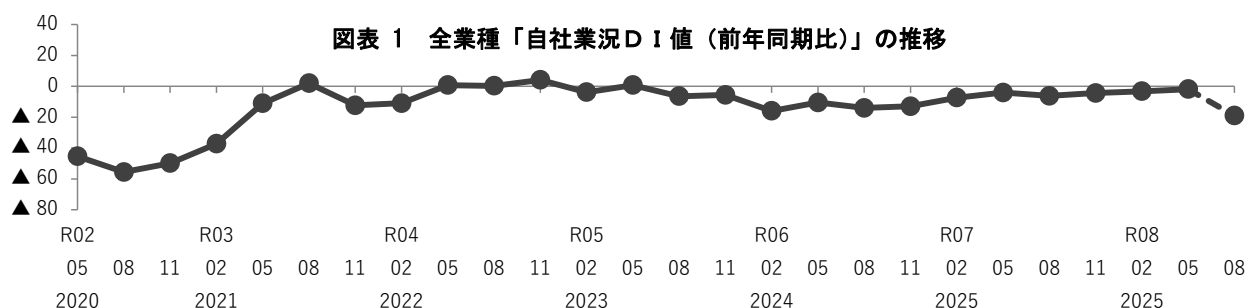
I. 県内企業の業況

1. 概況

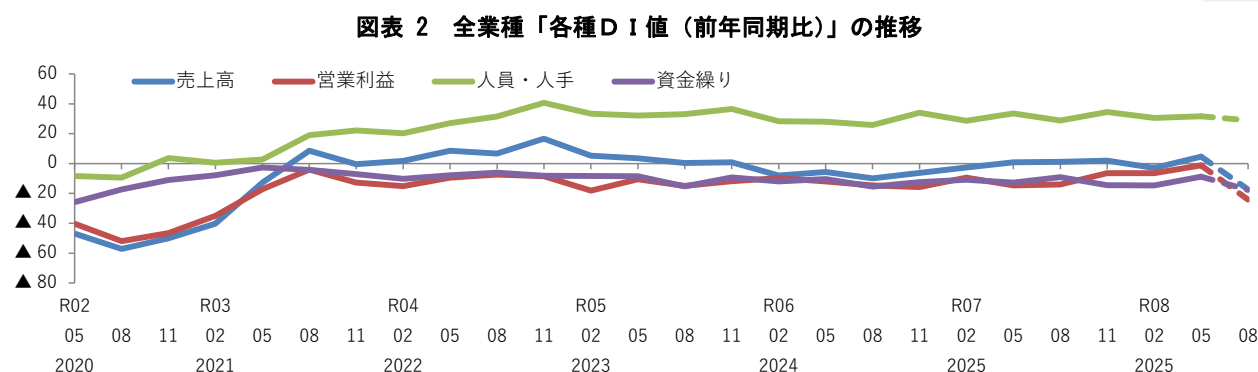
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲1.8（前回調査比1.4ポイント上昇）と3期連続改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」は改善となり、「売上高」はプラスに転じた。「人員・人手」はプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲19.0（今回調査比17.2ポイント下落）と大幅な悪化の見込みとなっている。

価格転嫁の進展やこれまでの災害復旧工事を中心とした公共工事の進ちょくなどを背景に、全業種平均の売上高や資金繰りには改善がみられ、総じてみれば景況感は小幅ながら持ち直しの動きとなった。一方で、人件費や原材料費などのコスト高により、企業の負担感は依然として厳しい状況が続いている。先行きについては、中東情勢の不確実性や石油関連製品の供給不安定化などが懸念材料となっており、慎重な見通しとなっている。



見通し



見通し

前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 07. 05 (n=375)	▲ 4.0	(3.3)	▲ 11.4	0.8	▲ 14.7	33.6	▲ 12.8
R 07. 08 (n=351)	▲ 6.2	(▲ 2.2)	▲ 6.9	1.2	▲ 14.0	28.8	▲ 9.1
R 07. 11 (n=352)	▲ 4.3	(1.9)	▲ 9.1	2.0	▲ 6.5	34.4	▲ 14.5
R 08. 02 (n=340)	▲ 3.2	(1.1)	▲ 12.2	▲ 2.9	▲ 6.5	30.6	▲ 14.7
R 08. 05 (n=342)	▲ 1.8	(1.4)	▲ 15.3	4.7	▲ 1.2	31.6	▲ 8.8
前回調査比	-	-	-	(7.6)	(5.3)	(1.0)	(5.9)
先行き見通し	▲ 19.0	-	-	▲ 17.3	▲ 24.2	28.9	▲ 17.6
今回調査比	(▲ 17.2)	-	-	(▲ 22.0)	(▲ 23.0)	(▲ 2.7)	(▲ 8.8)

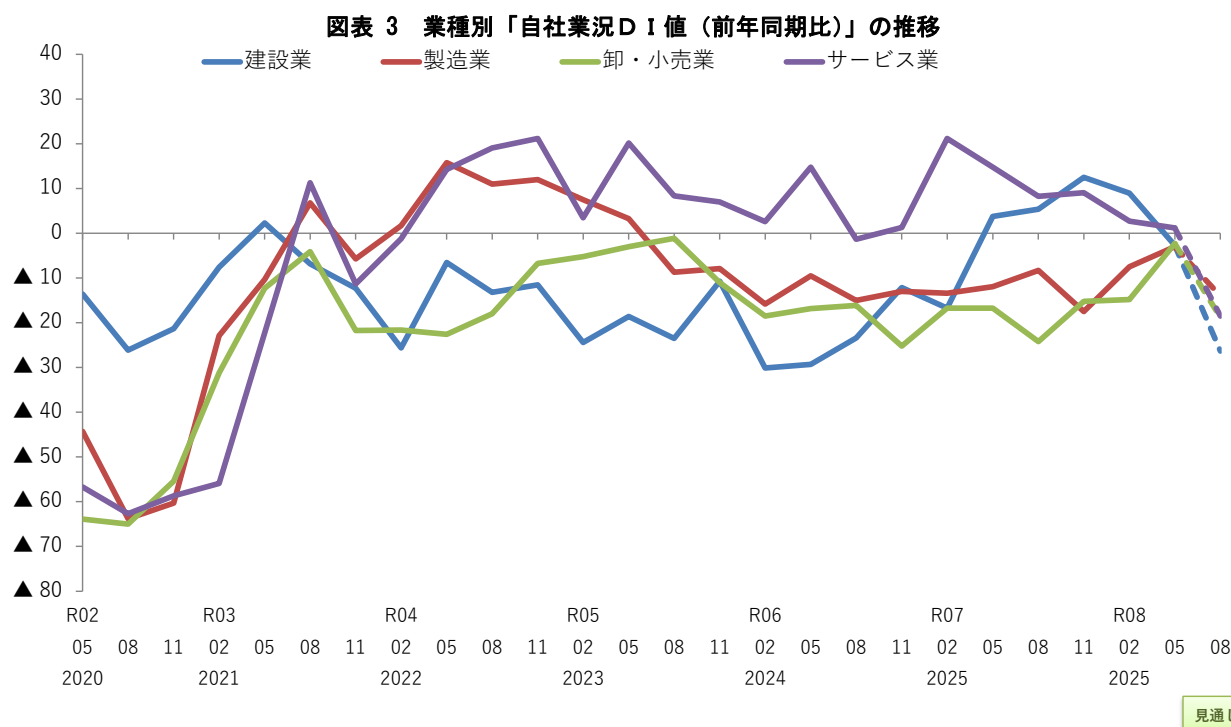
※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲2.7（前回調査比 11.7 ポイント下落）、製造業が▲3.0（前回調査比 4.5 ポイント上昇）、卸・小売業が▲2.3（前回調査比 12.5 ポイント上昇）、サービス業が 1.2（前回調査比 1.5 ポイント下落）と、製造業と卸・小売業は改善、建設業とサービス業は悪化となった。なお、建設業は 5 期ぶりに D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、すべての業種で悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 07. 05 (n=375)	▲ 4.0	3.8	▲ 11.9	▲ 16.7	14.8
R 07. 08 (n=351)	▲ 6.2	5.4	▲ 8.3	▲ 24.2	8.3
R 07. 11 (n=352)	▲ 4.3	12.5	▲ 17.5	▲ 15.2	9.1
R 08. 02 (n=340)	▲ 3.2	9.0	▲ 7.5	▲ 14.8	2.7
R 08. 05 (n=342)	▲ 1.8	▲ 2.7	▲ 3.0	▲ 2.3	1.2
前回調査比	(1.4)	(▲ 11.7)	(4.5)	(12.5)	(▲ 1.5)
先行き見通し	▲ 19.0	▲ 26.3	▲ 14.0	▲ 18.8	▲ 18.5
今回調査比	(▲ 17.2)	(▲ 23.6)	(▲ 11.0)	(▲ 16.5)	(▲ 19.7)

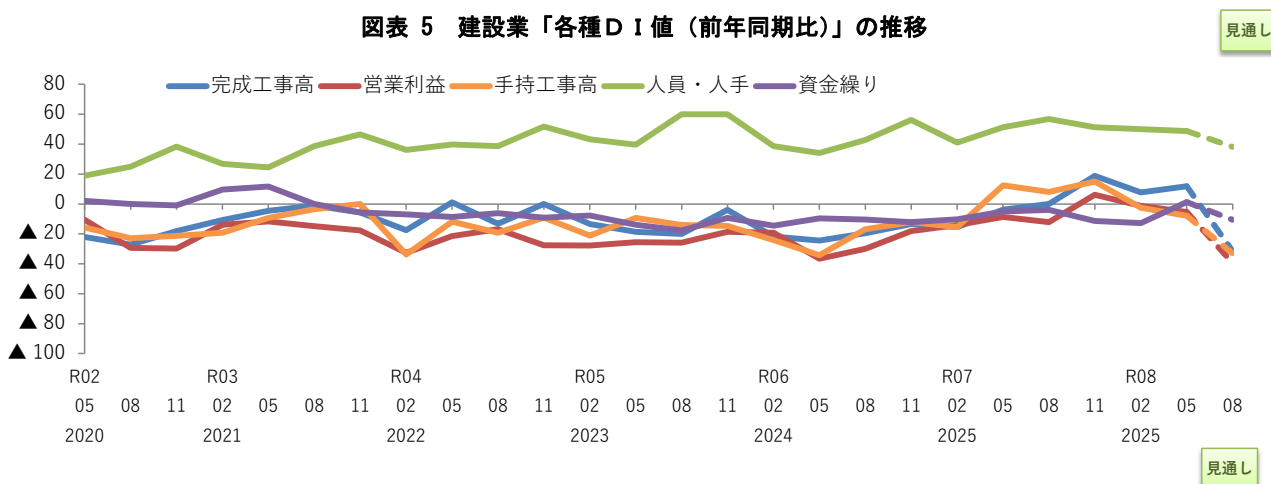
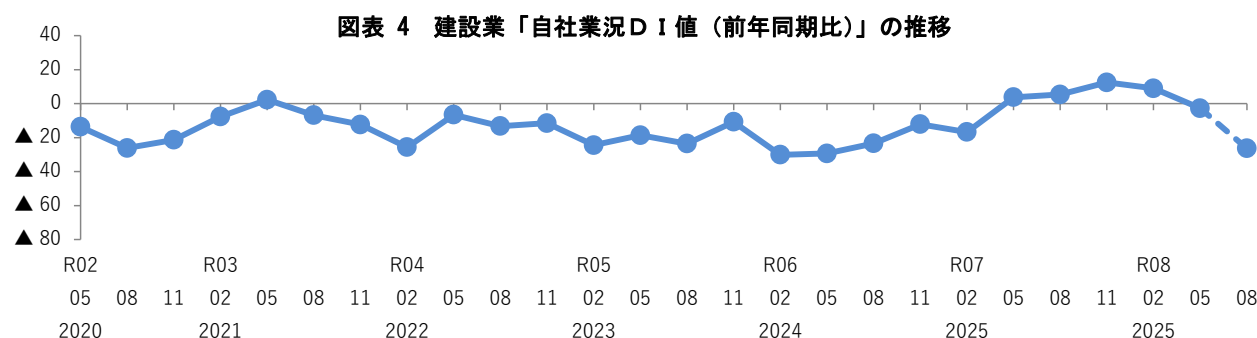
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲2.7（前回調査比 11.7 ポイント下落）と、マイナスに転じ、2 期連続の悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「資金繰り」の 2 項目で改善となり、「資金繰り」はプラスに転じた一方、「営業利益」「手持工事高」の 2 項目は 2 期連続で悪化した。「人員・人手」は 3 期連続でプラス幅が縮小した。

各社のコメントからみると、災害復旧工事を中心に公共工事の受注は一定程度みられるものの、民間工事の動きは鈍く、受注環境に弱さがうかがえる。人手不足が依然として続いているほか、資材価格の上昇や資材不足による工事の遅延が収益を圧迫している状況もみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.3（今回調査比 23.6 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 07. 05 (n=80)	3.8	(20.5)	▲ 16.7	▲ 3.8	▲ 8.7	12.5	51.3	▲ 5.0
R 07. 08 (n=74)	5.4	(1.6)	▲ 3.8	0.0	▲ 12.2	8.1	56.8	▲ 4.0
R 07. 11 (n=80)	12.5	(7.1)	▲ 13.5	18.8	6.2	15.0	51.2	▲ 11.3
R 08. 02 (n=78)	9.0	(▲ 3.5)	▲ 17.5	7.7	▲ 1.2	▲ 2.5	50.0	▲ 12.8
R 08. 05 (n=76)	▲ 2.7	(▲ 11.7)	▲ 21.8	11.8	▲ 5.3	▲ 7.9	48.7	1.3
前回調査比	-	-	-	(4.1)	(▲ 4.1)	(▲ 5.4)	(▲ 1.3)	(14.1)
先行き見通し	▲ 26.3	-	-	▲ 31.6	▲ 39.5	▲ 32.9	38.2	▲ 10.5
今回調査比	(▲ 23.6)	-	-	(▲ 43.4)	(▲ 34.2)	(▲ 25.0)	(▲ 10.5)	(▲ 11.8)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 主要な受注先である民間工事の発注は、低調な状況が続いている。(村山南)
- 資材価格、物流費、労務費の上昇が続いており、利益率の低下が見込まれる。また、一部には入手が困難な資材が発生し、工事期間の遅延を危惧している。(村山北)
- 複数の公共工事の発注時期が重なり、不足している技術者、作業員の確保に苦慮している。(村山北)
- 災害復旧工事が続いており、多忙となっている。資材の価格高騰が、利益を圧迫している。(最上)
- 資材や製品の納期が未定となるものが増加してきている。今期までの売上額は例年どおりの金額で落ち着いたが、新規の受注の動きが鈍い。(置賜)
- 建設資材の高騰が止まらない。入荷しない資材があり工事を延期しているものがある。(庄内田川)
- 豪雨災害の復旧工事が続いており、技術者、作業員が不足している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- DXや生成AIの活用を推進し、管理部門の現場支援を積極的に進める。(村山南)
- 受注見込みの案件はあるが、資材価格は高止まりしていることや、製品等の調達状況を勘案し利益確保について慎重にみている。(村山北)
- 人手不足が深刻で、外国人材の受け入れを含め人材確保策を検討している。人手の確保が業況に直結する見通しとなっている。(最上)
- 民間工事の発注が足踏みしている。資材価格の高騰や納期が未定となることにより先行きが見通せない状況になっている。(置賜)
- 資材の価格の状況や納期を確認しながら工事の受注を行っていく。低価格の工事は受注を控える。(庄内田川)
- 長期金利の上昇により、借入金の返済の負担増加を懸念している。(庄内飽海)

② 製造業

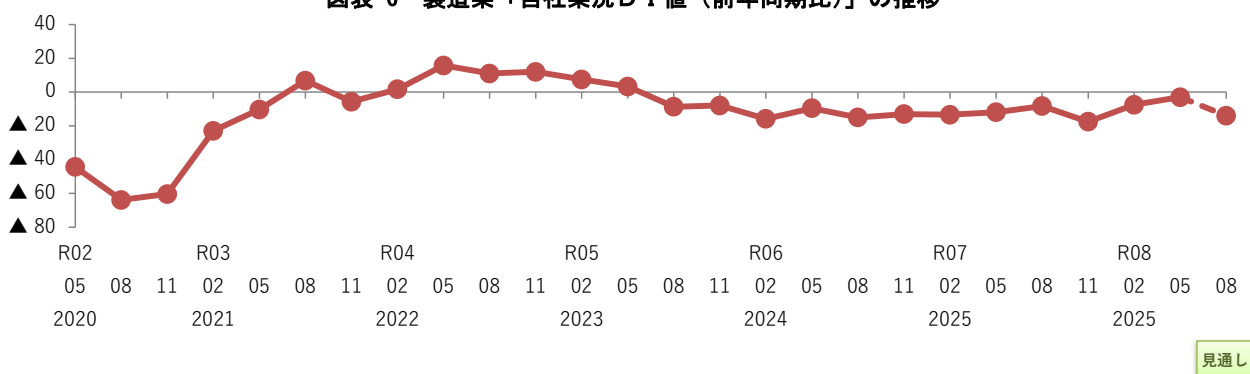
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲3.0（前回調査比 4.5 ポイント上昇）と 2 期連続で改善の動きとなった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「営業利益」「在庫状況」「資金繰り」は改善、「売上高」は横ばい、「仕入価格」は悪化となり、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。

各社のコメントからは、半導体関連設備の受注回復がみられる、今期は増収増益の見込みとする声があった。

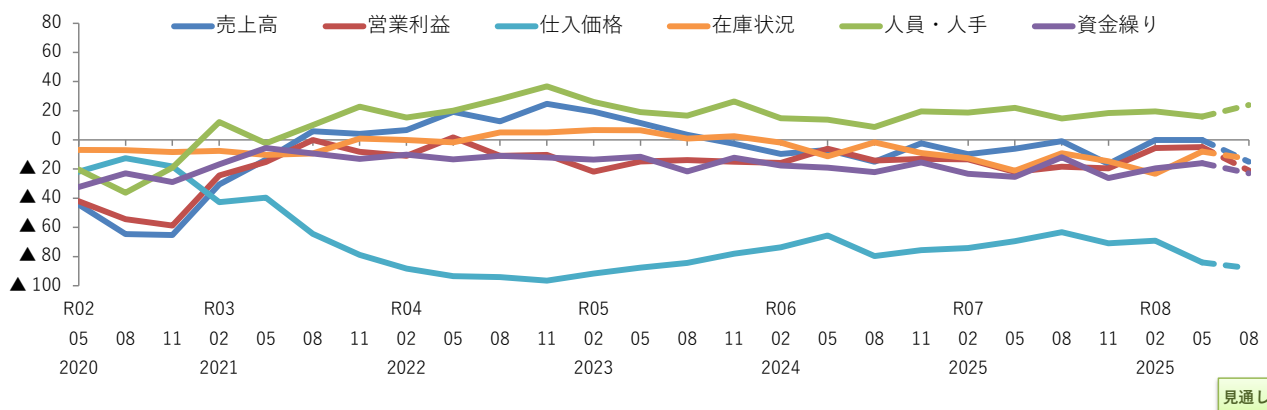
一方で、中東情勢の不安定化に伴い、原材料費、燃料費のほか、梱包材や包装資材等の価格高騰に加え、調達の不安定化への懸念が広がっている。また、価格転嫁がコスト上昇に追い付かず、収益面への影響を懸念する状況も生じている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲14.0（今回調査比 11.0 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 07.05 (n=118)	▲ 11.9	(1.5)	▲ 11.6	▲ 6.0	▲ 22.0	▲ 69.5	▲ 21.2	22.0	▲ 25.4
R 07.08 (n=109)	▲ 8.3	(3.6)	▲ 11.6	▲ 0.9	▲ 18.4	▲ 63.3	▲ 9.2	14.7	▲ 11.9
R 07.11 (n=103)	▲ 17.5	(▲ 9.2)	▲ 10.1	▲ 16.5	▲ 19.5	▲ 70.9	▲ 14.6	18.4	▲ 26.2
R 08.02 (n=107)	▲ 7.5	(10.0)	▲ 16.5	0.0	▲ 5.6	▲ 69.1	▲ 23.3	19.6	▲ 19.6
R 08.05 (n=100)	▲ 3.0	(4.5)	▲ 10.3	0.0	▲ 5.0	▲ 84.0	▲ 8.0	16.0	▲ 16.0
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(0.6)	(▲ 14.9)	(15.3)	(▲ 3.6)	(3.6)
先行き見通し	▲ 14.0	-	-	▲ 15.0	▲ 21.0	▲ 88.0	▲ 13.0	24.0	▲ 23.0
今回調査比	(▲ 11.0)	-	-	(▲ 15.0)	(▲ 16.0)	(▲ 4.0)	(▲ 5.0)	(8.0)	(▲ 7.0)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 包装資材の価格高騰と納期の見通しが立たないため、新商品の投入予定が立てられない。中東情勢の不安定化により先行きが見通せない。(村山南)
- 半導体関連の設備投資の動きが活発になっているが、ナフサ不足により樹脂材料の供給が不安定になっており、需要はあるが供給ができなくなる状況にある。(村山北)
- 気候の温暖化や有害鳥獣の被害により、原材料となる農産物への影響を懸念している。(村山北)
- 重油価格の高騰が負担となっている。手袋、袋など石油由来の商品の価格高騰や出荷制限が続いており、商品への価格転嫁を急いでいる。(最上)
- 中東情勢の不安定化により、自動車関連の業況が芳しくない。医療機器関連分野もナフサ不足の影響で受注が伸びていない。(置賜)
- 潤滑油や手袋など石油関連製品やレアメタルの供給不足により、生産活動に支障が出ることを危惧している。(庄内田川)
- 業務に支障は出ていないが、シンナー、切削油、塗料など石油関連商品の入手が難しくなっている。(庄内飽海)

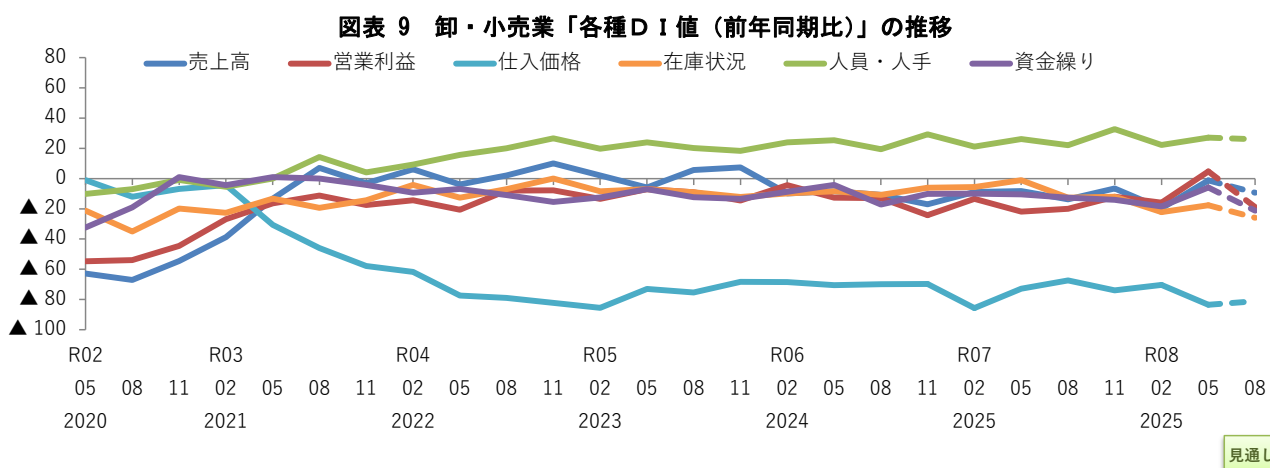
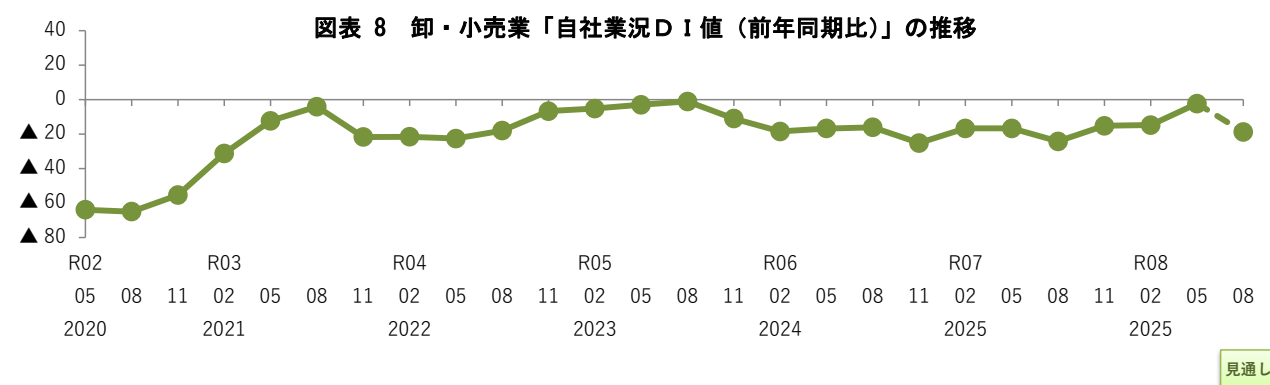
Q. 来期の見通しや対策等について

- 今期は順調に推移したが、来期は、生産計画は上昇としているものの、原材料を含め各種資材の価格高騰や調達が不透明なため、見通しが立たない。(村山南)
- 新規の受注案件があり、増産計画が具体化している。資材等の安定確保に注力していく。(村山北)
- 生産の効率化、材料等の調達先の分散化、海外展開に取り組んでいる。(最上)
- 人手不足に対応するため、技能継承や従業員教育に注力し人材確保に力を入れているほか、ロボットの導入を検討している。(置賜)
- 産業機械や工作機械向け製品に動きが出はじめ、受注や売上増加に期待している。(庄内田川)
- コメ価格の下落が予想され、農業機械市場にどう影響するか不透明になっている。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲2.3（前回調査比 12.5 ポイント上昇）と 3 期連続で改善の動きとなっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「在庫状況」「資金繰り」の 4 項目は改善となり、「営業利益」はプラスに転じ、「仕入価格」は悪化となった。「人員・人手」は、プラス幅が拡大した。各社のコメントからみると、一部の衣料品販売業で客単価や商品単価の上昇がみられるほか、電気機器卸業では蛍光灯の販売中止を背景に LED 照明器具の需要が高まり、業況改善につながっている様子がうかがえた。一方で、仕入価格や物流費の上昇が依然として続いているほか、石油関連製品の調達に支障をきたす事例も生じている。また、物価高を背景とした消費者の節約志向や買い控えによる販売低迷が、先行きの懸念材料としてあげられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲18.8（今回調査比 16.5 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



前年同期比の自社業況 D I 値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 07. 05 (n=96)	▲ 16.7	(0.0)	▲ 20.0	▲ 8.3	▲ 21.9	▲ 72.9	▲ 1.1	26.1	▲ 10.4
R 07. 08 (n=95)	▲ 24.2	(▲ 7.5)	▲ 15.6	▲ 13.7	▲ 20.0	▲ 67.4	▲ 12.6	22.1	▲ 12.6
R 07. 11 (n=92)	▲ 15.2	(9.0)	▲ 11.6	▲ 6.5	▲ 12.0	▲ 73.9	▲ 12.0	32.7	▲ 14.1
R 08. 02 (n=81)	▲ 14.8	(0.4)	▲ 12.0	▲ 19.7	▲ 16.0	▲ 70.4	▲ 22.2	22.3	▲ 18.5
R 08. 05 (n=85)	▲ 2.3	(12.5)	▲ 28.4	▲ 1.2	4.7	▲ 83.5	▲ 17.6	27.1	▲ 5.9
前回調査比	-	-	-	(18.5)	(20.7)	(▲ 13.1)	(4.6)	(4.8)	(12.6)
先行き見通し	▲ 18.8	-	-	▲ 9.4	▲ 18.9	▲ 81.2	▲ 25.9	25.9	▲ 21.2
今回調査比	(▲ 16.5)	-	-	(▲ 8.2)	(▲ 23.6)	(2.3)	(▲ 8.3)	(▲ 1.2)	(▲ 15.3)

Q. 今期の業況について

業界の声

- メーカーからの商品の入荷には原油不足による影響はまだないが、今後の動向をよくみて在庫管理をしていく。(村山南)
- 円安、海上運賃の上昇により資材価格が高騰しているほか、包装資材など石油関連製品の大幅な値上げ要請が届いている。(村山北)
- パソコン等の価格が高止まりしているほか、品不足が続いている。(最上)
- 仕入価格の高騰には、価格転嫁をするなど対応してきたが、メーカーからの出荷制限にどう対応するか危惧している。(置賜)
- 商品の仕入価格、物流費、人件費の上昇率の幅が大きく、どのように利益確保していくかが課題である。(庄内田川)
- 石油関連製品の入荷が制限され、受注した量が確保できないものがでてきた。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

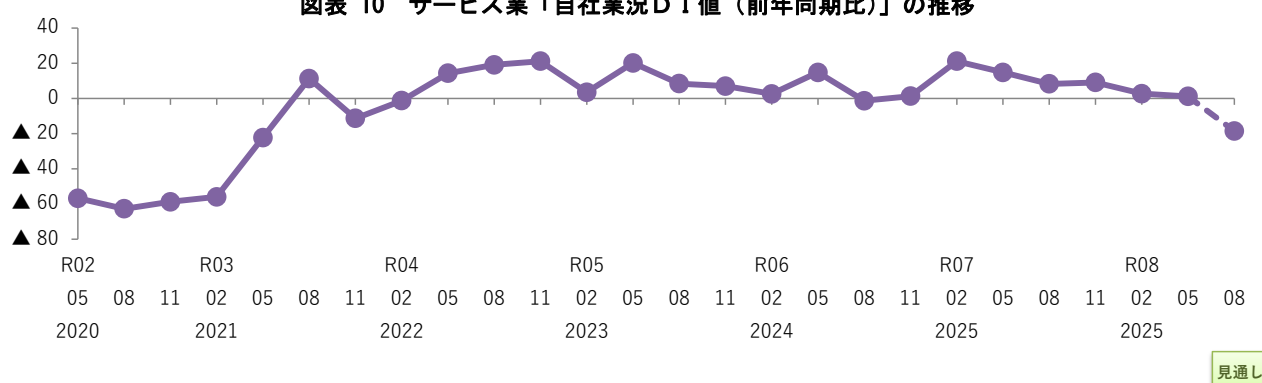
- 仕入価格の上昇にあわせて迅速に価格転嫁ができるよう、メーカーなどからの情報収集に努めて丁寧に顧客に説明していく。(村山南)
- 建設資材の入荷状況が不安定になっており、この状況が続くと建築着工の遅延につながる懸念される。(村山北)
- 物価高で消費が鈍く、来期の見通しは不透明になっている。(最上)
- 昨年末に店頭価格を上げ、今後通販部門の価格の据え置きを見直し上げていく。(置賜)
- 食料品は、ようやく需要がコロナ禍前の水準に近づくきざしがあったが、価格転嫁がしにくいため、利益確保が厳しい状況にある。(庄内田川)
- 物価高や人口減少が加速し消費の低迷が止まらず、売り上げが伸びない。(庄内飽海)

④ サービス業

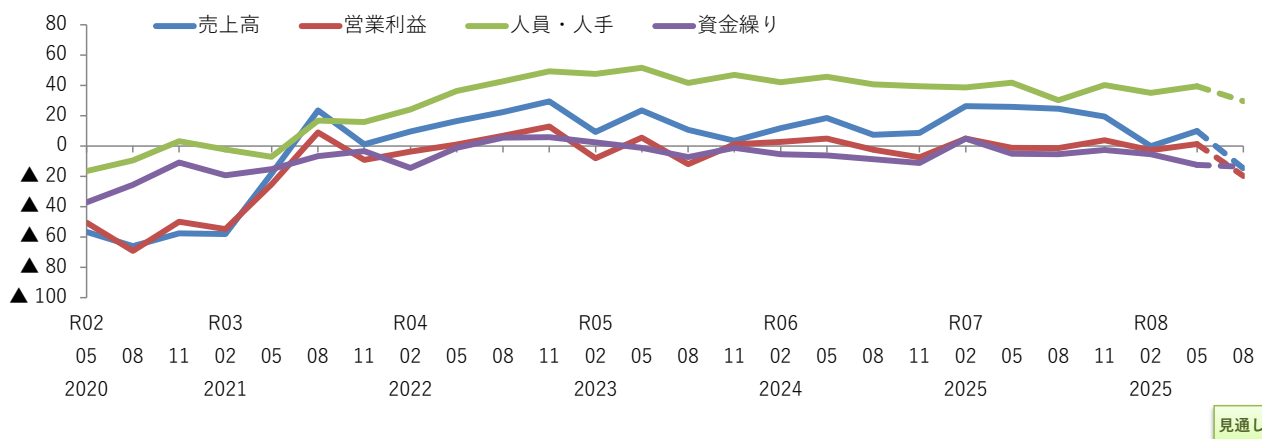
「自社の業況DI値（前年同期比）」は1.2（前回調査比1.5ポイント下落）2期連続で悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」は改善となり「営業利益」はプラスに転じ、「資金繰り」が悪化となった。「人員・人手」はプラス幅が拡大した。各社のコメントによれば、旅行業関連では冬季のインバウンド需要により売り上げ好調に推移している状況がうかがえたほか、今後はサクランボの収穫シーズンに向けた誘客強化を図る動きも見られた。一方、自動車整備業では、エンジンオイルやシンナー等石油関連製品の品不足や納品遅れにより、サービス提供への影響を懸念するコメントが寄せられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲18.5（今回調査比19.7ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
		前回調査比	前回調査予測				
R 07. 05 (n=81)	14.8	(▲ 6.4)	3.8	25.9	▲ 1.2	41.9	▲ 5.0
R 07. 08 (n=73)	8.3	(▲ 6.5)	5.0	24.7	▲ 1.3	30.2	▲ 5.4
R 07. 11 (n=77)	9.1	(0.8)	0.0	19.5	3.9	40.3	▲ 2.6
R 08. 02 (n=74)	2.7	(▲ 6.4)	▲ 1.3	0.0	▲ 2.7	35.1	▲ 5.4
R 08. 05 (n=81)	1.2	(▲ 1.5)	▲ 1.3	9.9	1.3	39.5	▲ 12.4
前回調査比	-	-	-	(9.9)	(4.0)	(4.4)	(▲ 7.0)
先行き見通し	▲ 18.5	-	-	▲ 14.8	▲ 19.7	29.6	▲ 13.6
今回調査比	(▲ 19.7)	-	-	(▲ 24.7)	(▲ 21.0)	(▲ 9.9)	(▲ 1.2)

Q. 今期の業況について

業界の声

- インバウンド客が増加したことから2月の売上高は過去最高であった。中国からのお客様は、12月までは多かったが、3月はゼロになった。(村山南)
- 県内の大型の解体工事が少ないため、受注活動に力をいれていく。(村山北)
- 各種機械等に使用する潤滑油やその他消耗品が不足しはじめている。(最上)
- 原油を主とする材料の入荷の見通しが立たない状況になっている。(置賜)
- 人手不足は解消されない。特に若手人材の確保は極めて厳しい状況にある。(庄内田川)
- 物価高に加え、人材確保のため人件費を上げなければならないため、受注価格を見直している。(庄内田川)
- 物価上昇のためか、消費者の動向は鈍くなっているように感じる。(庄内飽海)
- 材料費、消耗品費の価格が上昇している。宴会の需要が減少している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 冬季は少雪の影響もあり代車需要が減少したことなどから前期の売り上げは前年割れとなったが、5月の連休中のレンタカーの需要は順調だったため売り上げは回復すると見込んでいる。(村山南)
- 板金用のシンナーやエンジンオイルが不足しているが、一部を除いた新車の供給がよくなってきている。人材不足は今後も続くとみている。(村山北)
- 燃料代が高騰し運行原価が上っているが、単価アップで売り上げ増となる見込み。(最上)
- 燃料費やその他諸経費の高騰や人手不足に対して、できることから改善を進めているが、改善のスピードが追いつけるか危惧している。(庄内田川)
- 原油高や物価高であるが、旅行需要は旺盛であるので、来期に期待している。(庄内飽海)

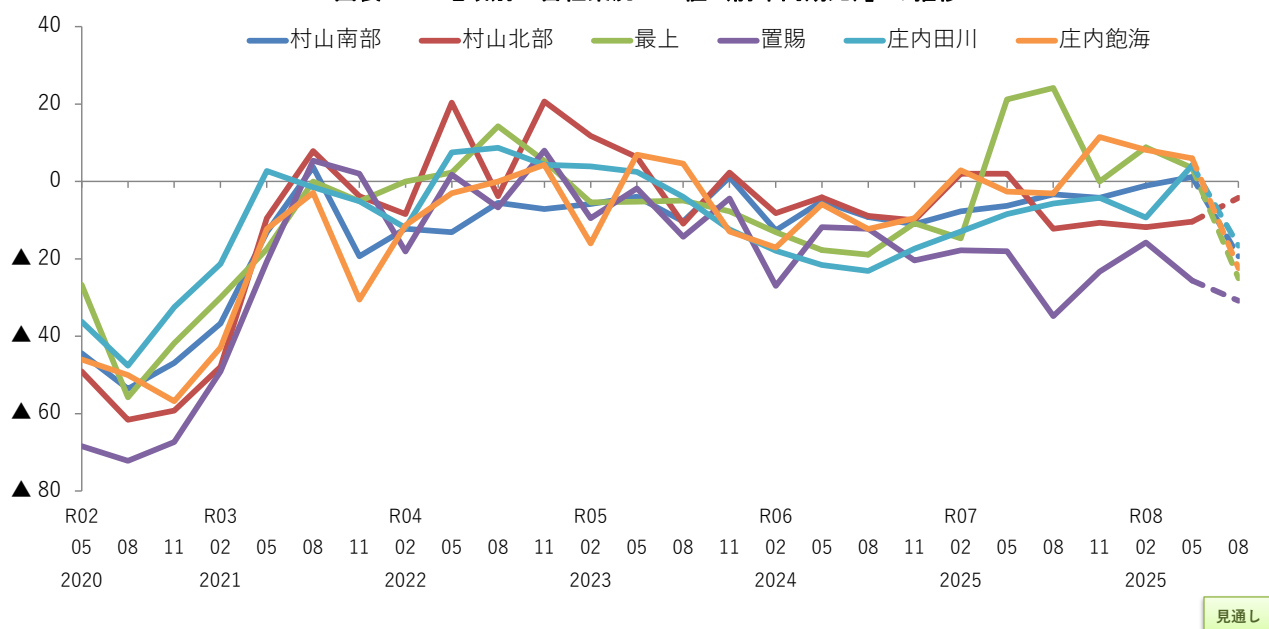
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が1.2（前回調査比2.3ポイント上昇）、村山北部が▲10.4（前回調査比1.4ポイント上昇）、最上が3.5（前回調査比5.3ポイント下落）、置賜が▲25.6（前回調査比9.8ポイント下落）、庄内田川が4.2（前回調査比13.5ポイント上昇）、庄内飽海が6.0（前回調査比2.2ポイント下落）と、村山南部、村山北部、庄内田川の3地域は改善、最上、置賜、庄内飽海の3地域は悪化となった。村山南部、庄内田川ではDI値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、村山北部で改善、その他の5地域で悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

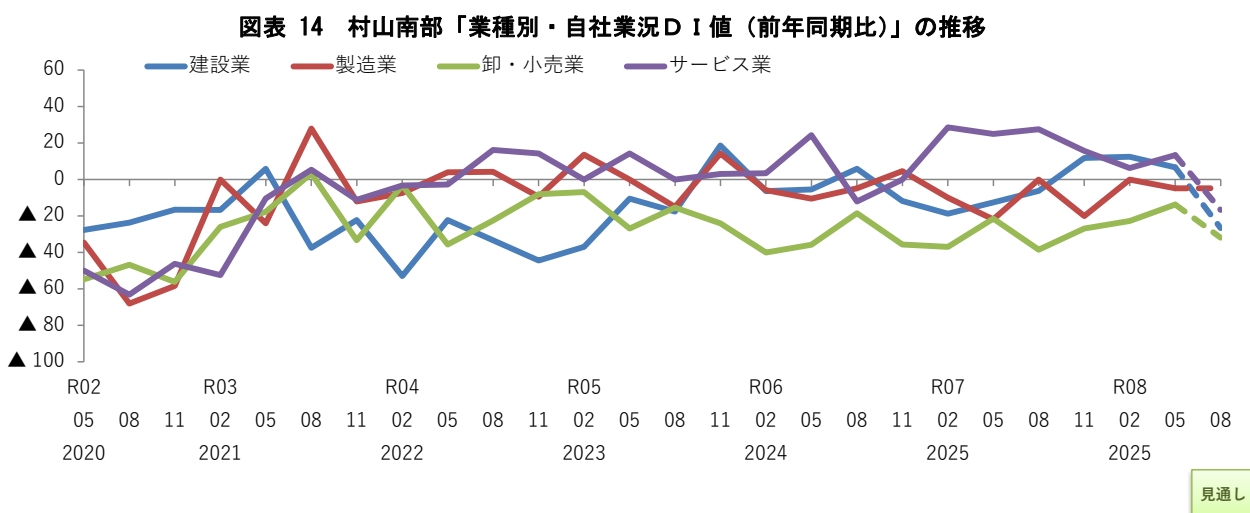
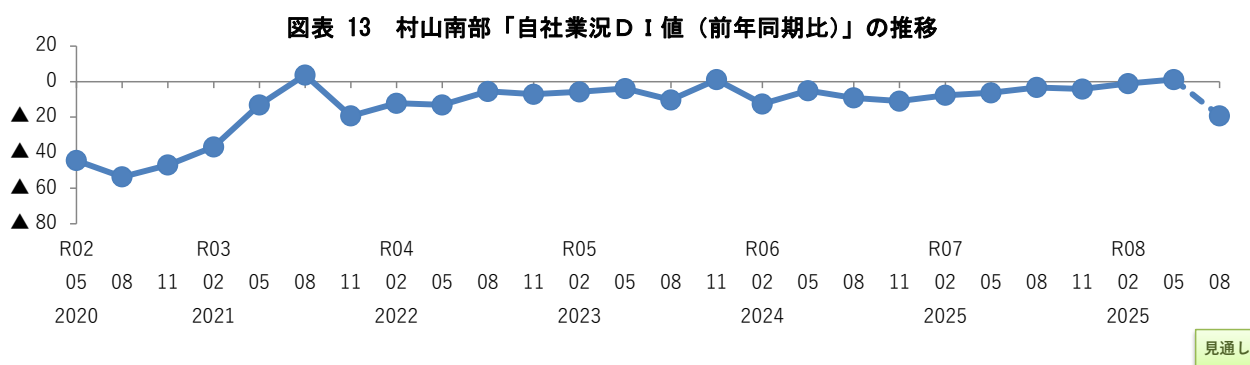
地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 07. 05 (n=375)	▲ 4.0	▲ 6.3	2.0	21.2	▲ 18.0	▲ 8.4	▲ 2.6
R 07. 08 (n=351)	▲ 6.2	▲ 3.3	▲ 12.2	24.2	▲ 34.8	▲ 5.7	▲ 3.1
R 07. 11 (n=352)	▲ 4.3	▲ 4.2	▲ 10.7	0.0	▲ 23.3	▲ 4.2	11.5
R 08. 02 (n=340)	▲ 3.2	▲ 1.1	▲ 11.8	8.8	▲ 15.8	▲ 9.3	8.2
R 08. 05 (n=342)	▲ 1.8	1.2	▲ 10.4	3.5	▲ 25.6	4.2	6.0
前回調査比	(1.4)	(2.3)	(1.4)	(▲ 5.3)	(▲ 9.8)	(13.5)	(▲ 2.2)
先行き見通し	▲ 19.0	▲ 19.3	▲ 4.2	▲ 25.0	▲ 30.8	▲ 16.6	▲ 22.4
今回調査比	(▲ 17.2)	(▲ 20.5)	(6.2)	(▲ 28.5)	(▲ 5.2)	(▲ 20.8)	(▲ 28.4)

(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.2（前回調査比 2.3 ポイント上昇）と 2 期連続で改善の動きとなった。業種別にみると、卸・小売業とサービス業は改善、建設業と製造業は悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲19.3（今回調査比 20.5 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。



前年同期比の自社業況 D I 値

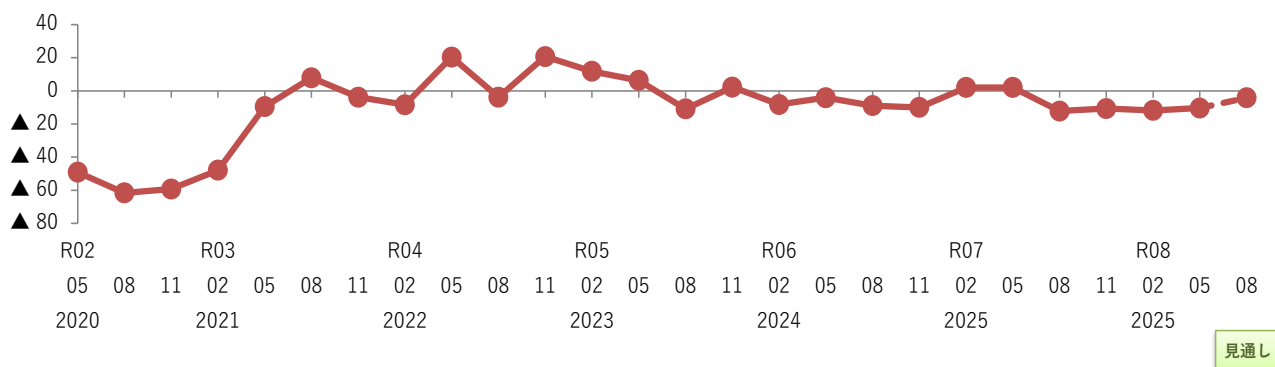
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 07. 05 (n=95)	▲ 6.3	(1.4)	▲ 2.2	▲ 12.5	▲ 21.8	▲ 21.4	25.0
R 07. 08 (n=92)	▲ 3.3	(3.0)	▲ 2.1	▲ 6.2	0.0	▲ 38.5	27.6
R 07. 11 (n=95)	▲ 4.2	(▲ 0.9)	▲ 3.3	11.8	▲ 20.0	▲ 26.9	15.7
R 08. 02 (n=91)	▲ 1.1	(3.1)	▲ 11.6	12.5	0.0	▲ 22.7	6.3
R 08. 05 (n=88)	1.2	(2.3)	▲ 12.1	6.7	▲ 4.8	▲ 13.7	13.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 5.8)	(▲ 4.8)	(9.0)	(7.1)
先行き見通し	▲ 19.3	-	-	▲ 26.6	▲ 4.8	▲ 31.9	▲ 16.7
今回調査比	(▲ 20.5)	-	-	(▲ 33.3)	(0.0)	(▲ 18.2)	(▲ 30.1)

② 村山北部

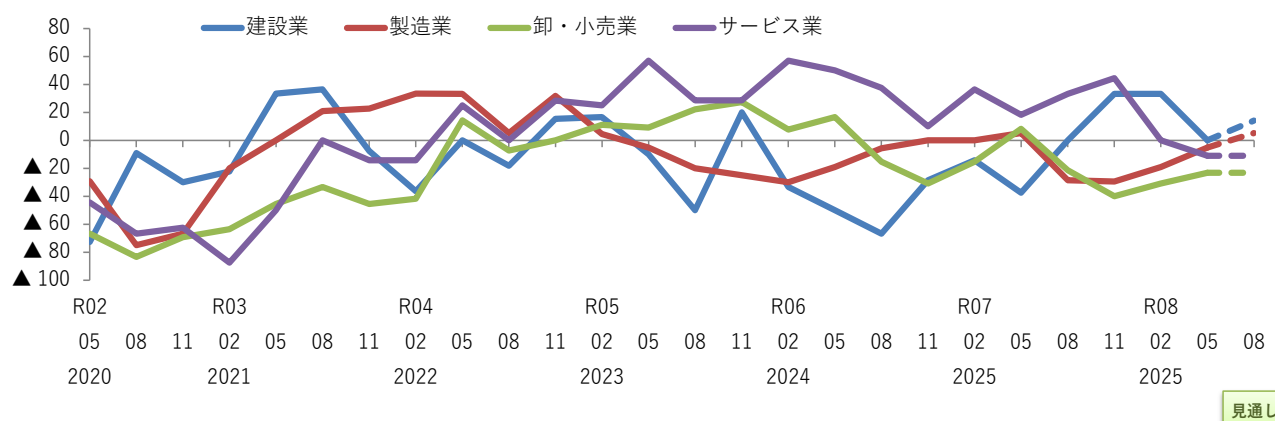
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.4（前回調査比 1.4 ポイント上昇）と小幅ながら 2 期ぶりに改善した。業種別にみると、建設業とサービス業は悪化となった一方で、製造業と卸・小売業は改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲4.2（今回調査比 6.2 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

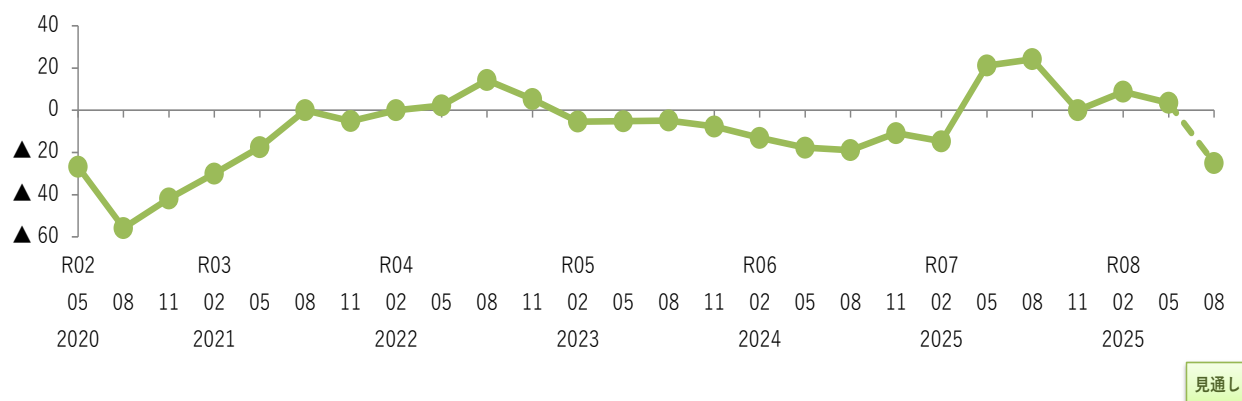
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 07. 05 (n=50)	2.0	(0.0)	▲ 22.0	▲ 37.5	5.3	8.3	18.2
R 07. 08 (n=49)	▲ 12.2	(▲ 14.2)	▲ 10.0	0.0	▲ 28.6	▲ 21.4	33.3
R 07. 11 (n=47)	▲ 10.7	(1.5)	▲ 2.1	33.3	▲ 29.4	▲ 40.0	44.5
R 08. 02 (n=51)	▲ 11.8	(▲ 1.1)	▲ 6.4	33.3	▲ 19.0	▲ 30.8	0.0
R 08. 05 (n=48)	▲ 10.4	(1.4)	▲ 15.7	0.0	▲ 5.2	▲ 23.1	▲ 11.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 33.3)	(13.8)	(7.7)	(▲ 11.1)
先行き見通し	▲ 4.2	-	-	14.2	5.3	▲ 23.1	▲ 11.1
今回調査比	(6.2)	-	-	(14.2)	(10.5)	(0.0)	(0.0)

③ 最 上

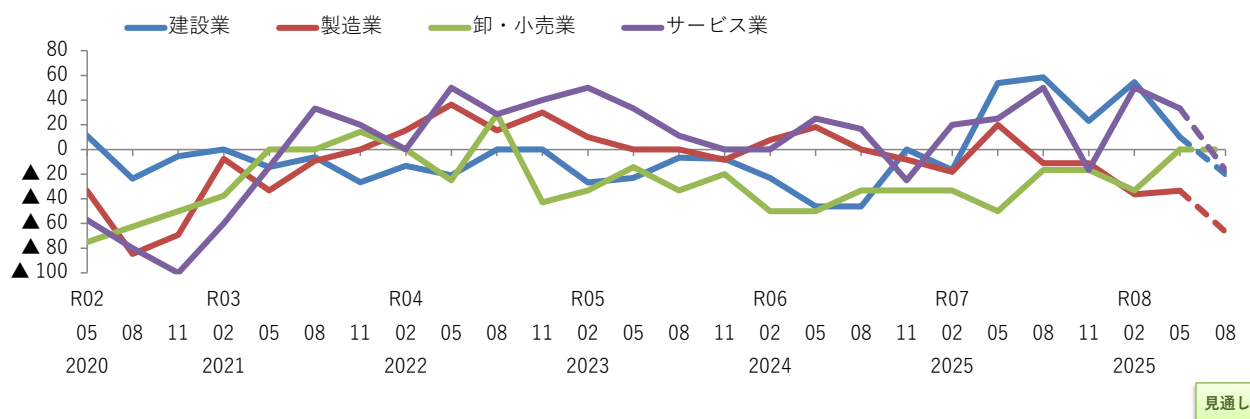
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 3.5（前回調査比 5.3 ポイント下落）と前期の好転から悪化の動きとなった。業種別にみると、建設業とサービス業は悪化、製造業と卸・小売業は改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲25.0（今回調査比 28.5 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

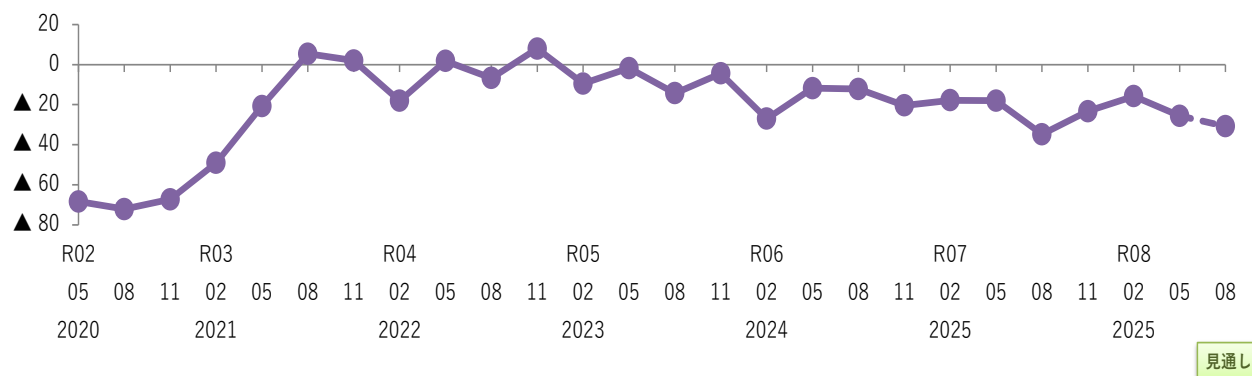
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 07.05 (n=33)	21.2	(35.9)	2.9	53.8	20.0	▲ 50.0	25.0
R 07.08 (n=33)	24.2	(3.0)	▲ 3.0	58.4	▲ 11.1	▲ 16.7	50.0
R 07.11 (n=34)	0.0	(▲ 24.2)	6.0	23.1	▲ 11.1	▲ 16.6	▲ 16.7
R 08.02 (n=34)	8.8	(8.8)	▲ 11.8	54.5	▲ 36.4	▲ 33.3	50.0
R 08.05 (n=28)	3.5	(▲ 5.3)	▲ 11.7	10.0	▲ 33.4	0.0	33.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 44.5)	(3.0)	(33.3)	(▲ 16.7)
先行き見通し	▲ 25.0	-	-	▲ 20.0	▲ 66.7	0.0	▲ 16.7
今回調査比	(▲ 28.5)	-	-	(▲ 30.0)	(▲ 33.3)	(0.0)	(▲ 50.0)

④ 置 賜

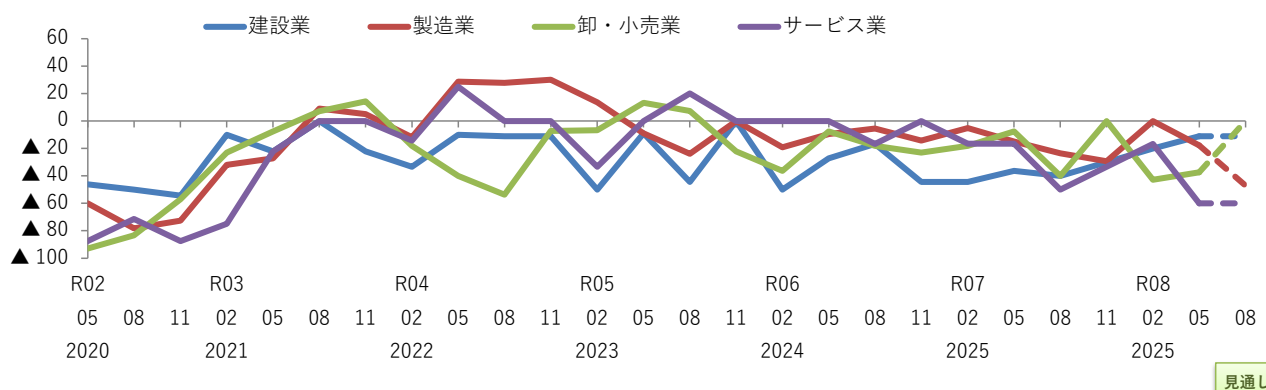
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲25.6（前回調査比 9.8 ポイント下落）と 3 期ぶりの悪化となった。
業種別にみると、建設業と卸・小売業は改善、製造業とサービス業は悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲30.8（今回調査比 5.2 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

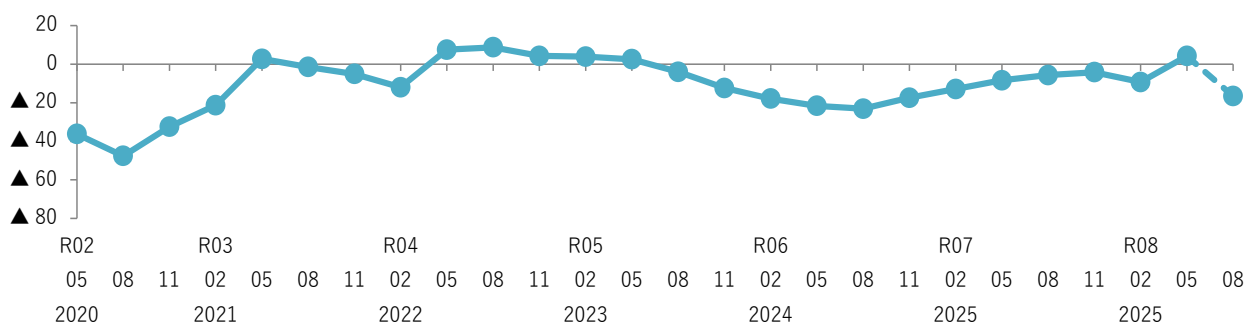
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 07. 05 (n=50)	▲ 18.0	(▲ 0.2)	▲ 15.6	▲ 36.3	▲ 15.0	▲ 7.7	▲ 16.6
R 07. 08 (n=43)	▲ 34.8	(▲ 16.8)	▲ 8.0	▲ 40.0	▲ 23.6	▲ 40.0	▲ 50.0
R 07. 11 (n=43)	▲ 23.3	(11.5)	▲ 16.3	▲ 30.0	▲ 29.4	0.0	▲ 33.3
R 08. 02 (n=38)	▲ 15.8	(7.5)	▲ 27.9	▲ 20.0	0.0	▲ 42.9	▲ 16.7
R 08. 05 (n=39)	▲ 25.6	(▲ 9.8)	▲ 36.8	▲ 11.1	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 60.0
前回調査比	-	-	-	(8.9)	(▲ 17.7)	(5.4)	(▲ 43.3)
先行き見通し	▲ 30.8	-	-	▲ 11.1	▲ 47.0	0.0	▲ 60.0
今回調査比	(▲ 5.2)	-	-	(0.0)	(▲ 29.3)	(37.5)	(0.0)

⑤ 庄内田川

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 4.2（前回調査比 13.5 ポイント上昇）とプラスに転じ、改善となった。業種別にみると、建設業は悪化、その他の 3 業種は改善となり、製造業とサービス業は D I 値がプラスに転じた。

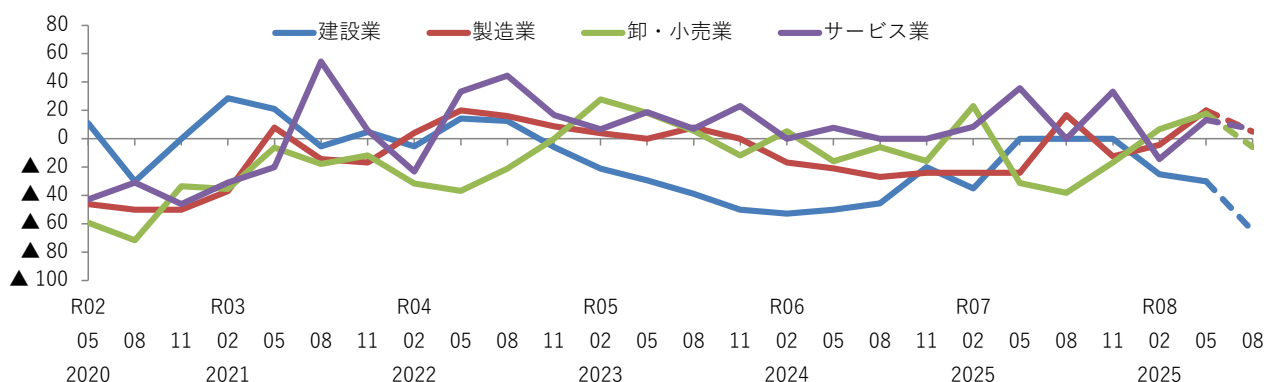
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲16.6（今回調査比 20.8 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

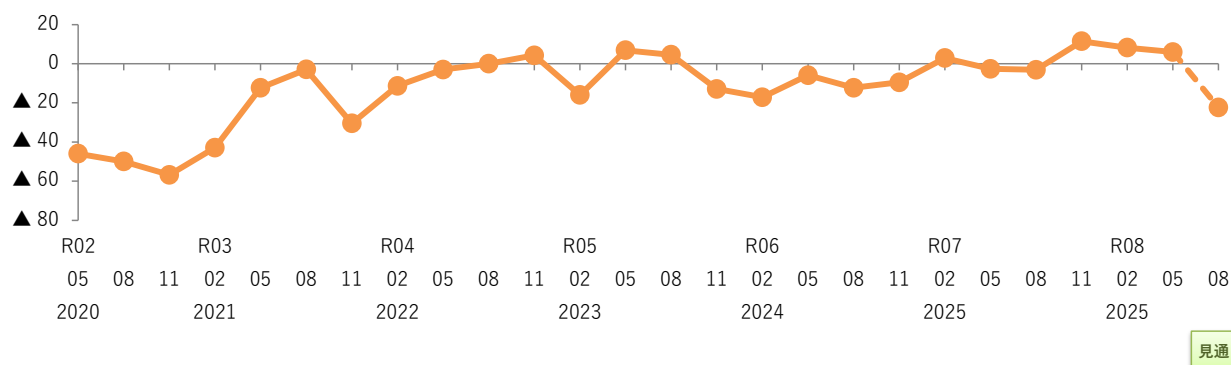
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 07. 05 (n=72)	▲ 8. 4	(4. 5)	▲ 35. 7	0. 0	▲ 24. 0	▲ 31. 3	35. 7
R 07. 08 (n=70)	▲ 5. 7	(2. 7)	▲ 16. 7	0. 0	16. 7	▲ 38. 1	0. 0
R 07. 11 (n=72)	▲ 4. 2	(1. 5)	▲ 21. 5	0. 0	▲ 12. 5	▲ 16. 7	33. 3
R 08. 02 (n=65)	▲ 9. 3	(▲ 5. 1)	▲ 12. 5	▲ 25. 0	▲ 4. 4	6. 7	▲ 14. 3
R 08. 05 (n=72)	4. 2	(13. 5)	▲ 7. 7	▲ 30. 0	20. 0	17. 7	13. 3
前回調査比	—	—	—	(▲ 5. 0)	(24. 4)	(11. 0)	(27. 6)
先行き見通し	▲ 16. 6	—	—	▲ 65. 0	5. 0	▲ 5. 9	6. 7
今回調査比	(▲ 20. 8)	—	—	(▲ 35. 0)	(▲ 15. 0)	(▲ 23. 6)	(▲ 6. 6)

⑥ 庄内飽海

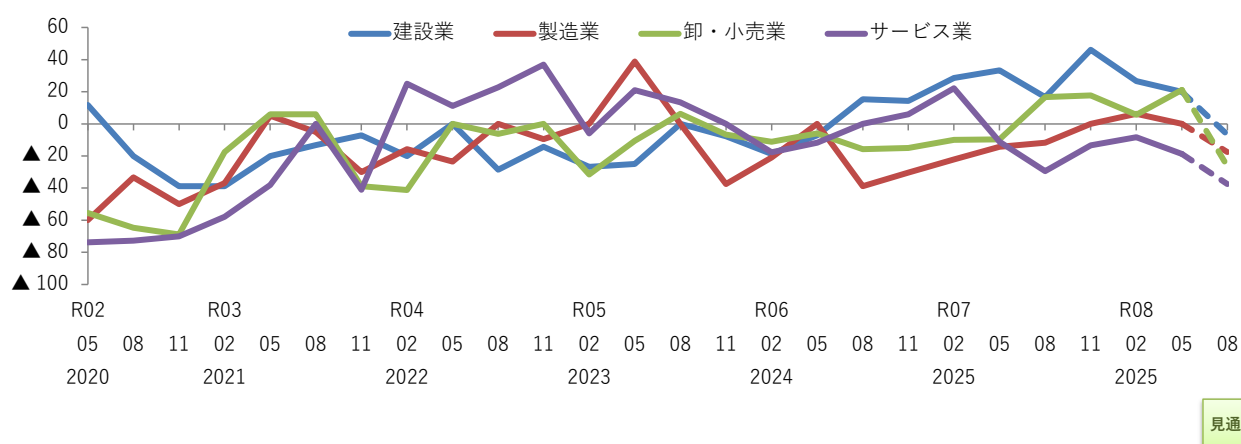
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 6.0（前回調査比 2.2 ポイント下落）と 2 期連続で悪化となった。業種別にみると、卸・小売業は改善、建設業、製造業、サービス業は悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲22.4（今回調査比 28.4 ポイント下落）と大幅に悪化する見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



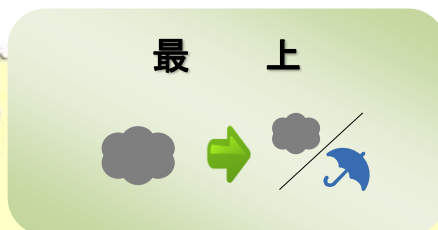
前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 07. 05 (n=75)	▲ 2.6	(▲ 5.5)	4.3	33.3	▲ 14.3	▲ 9.6	▲ 11.1
R 07. 08 (n=64)	▲ 3.1	(▲ 0.5)	▲ 2.6	16.6	▲ 11.8	16.7	▲ 29.5
R 07. 11 (n=61)	11.5	(14.6)	▲ 12.5	46.1	0.0	17.7	▲ 13.4
R 08. 02 (n=61)	8.2	(▲ 3.3)	▲ 6.5	26.6	6.2	5.6	▲ 8.3
R 08. 05 (n=67)	6.0	(▲ 2.2)	▲ 16.3	20.0	0.0	21.1	▲ 18.7
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.6)	(▲ 6.2)	(15.5)	(▲ 10.4)
先行き見通し	▲ 22.4	-	-	▲ 6.7	▲ 17.6	▲ 26.3	▲ 37.5
今回調査比	(▲ 28.4)	-	-	(▲ 26.7)	(▲ 17.6)	(▲ 47.4)	(▲ 18.8)

11. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

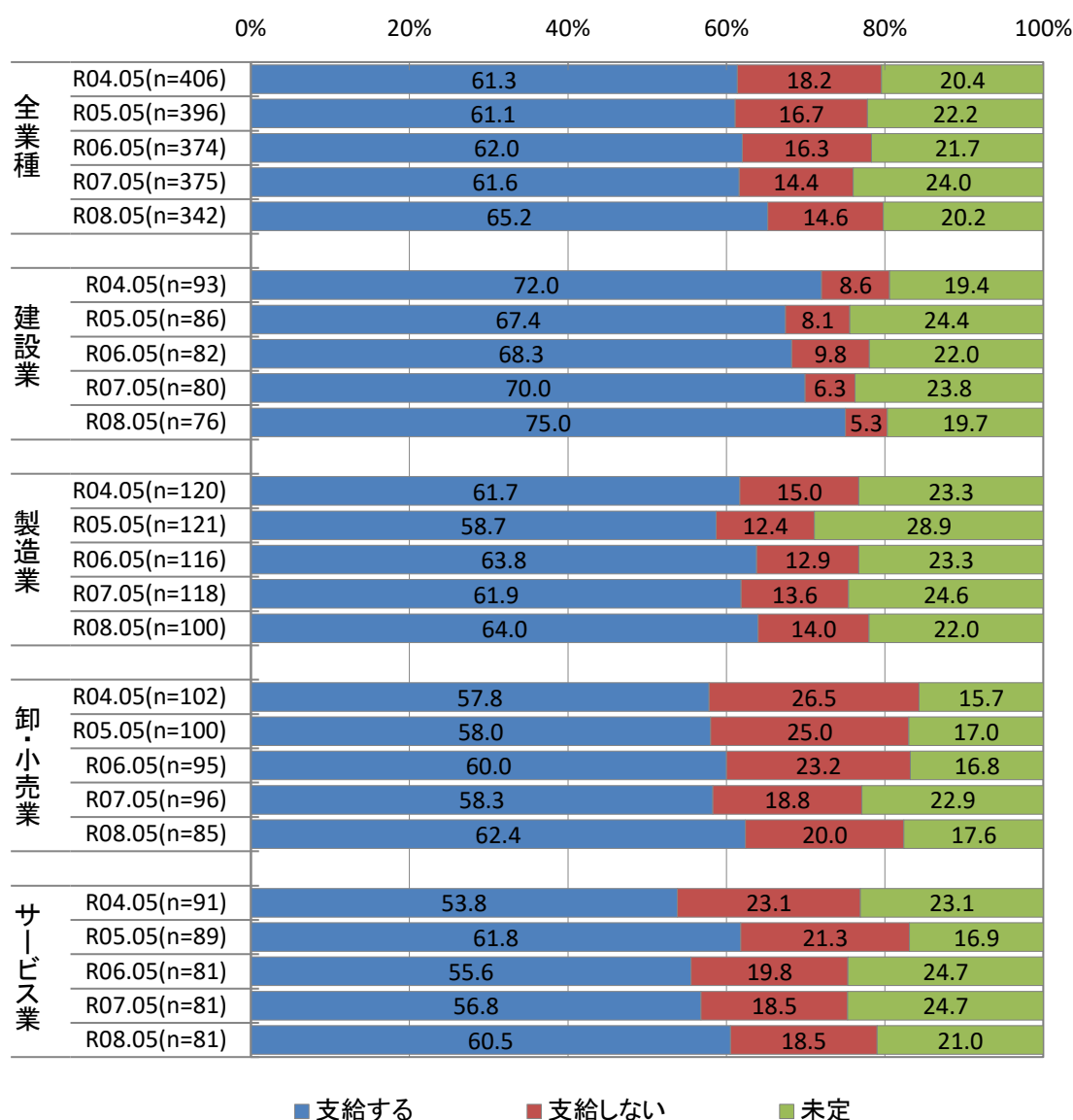
1. 夏季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 65.2% と、前年に比べ 3.6 ポイント上昇し、引き続き 6 割を上回った。

業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 75.0%（前年比 5.0 ポイント上昇）、製造業が 64.0%（前年比 2.1 ポイント上昇）、卸・小売業が 62.4%（前年比 4.1 ポイント上昇）、サービス業が 60.5%（前年比 3.7 ポイント上昇）となった。

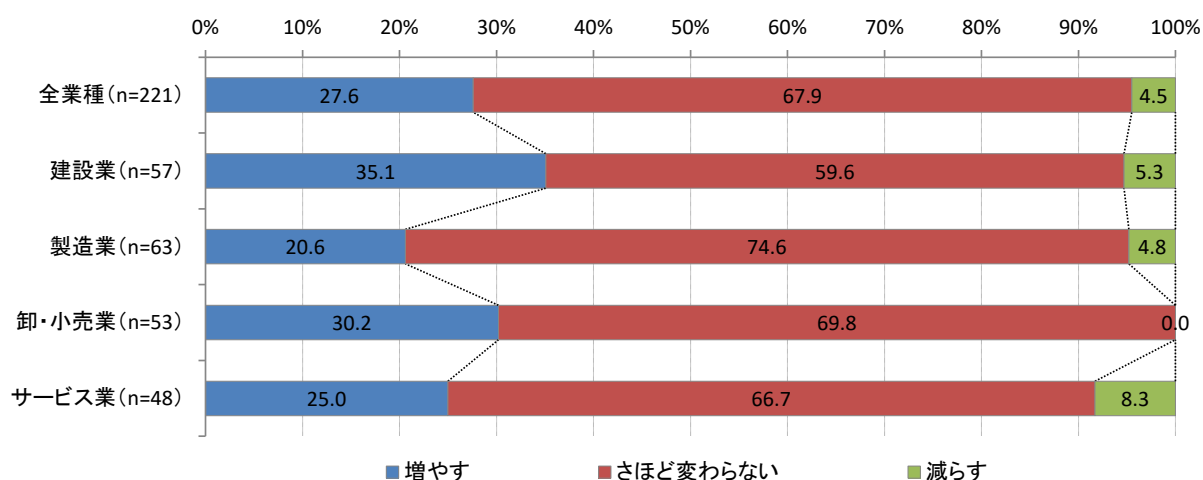
図表 25 業種別 夏季ボーナス支給動向の推移



今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 67.9%と最も多く、次いで「増やす」が 27.6%、「減らす」は 4.5%となった。

業種別にみても、すべての業種で「さほど変わらない」が最も多くなっており、「増やす」と回答した企業は建設業が 35.1%と、最も高い割合となっている。

図表 26 業種別 夏季ボーナスを支給する企業の方針

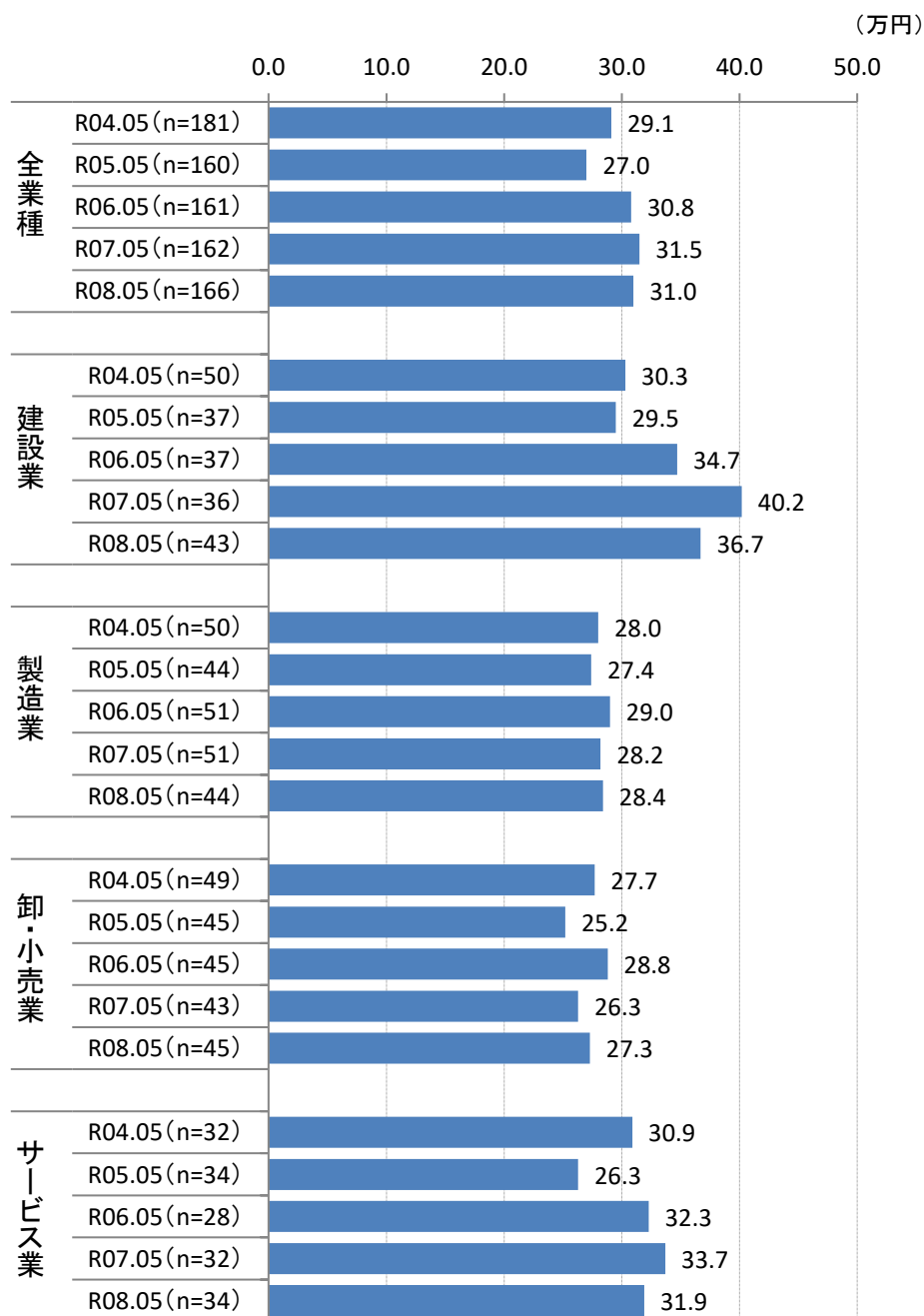


(2) 支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額は、全業種平均で 31.0 万円となり、前年から減少となった。

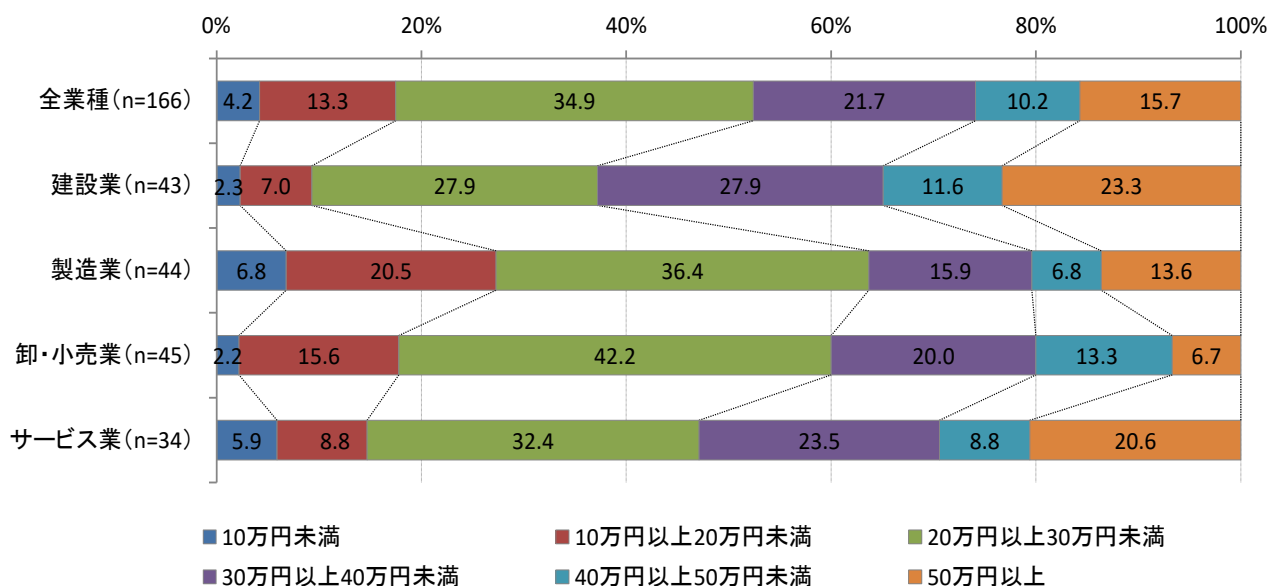
業種別にみると、建設業で前年比 3.5 万円減少、製造業で 0.2 万円増加、卸・小売業で 1.0 万円増加、サービス業で 1.8 万円減少と、製造業と卸・小売業で増加、建設業とサービス業で減少となった。

図表 27 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移

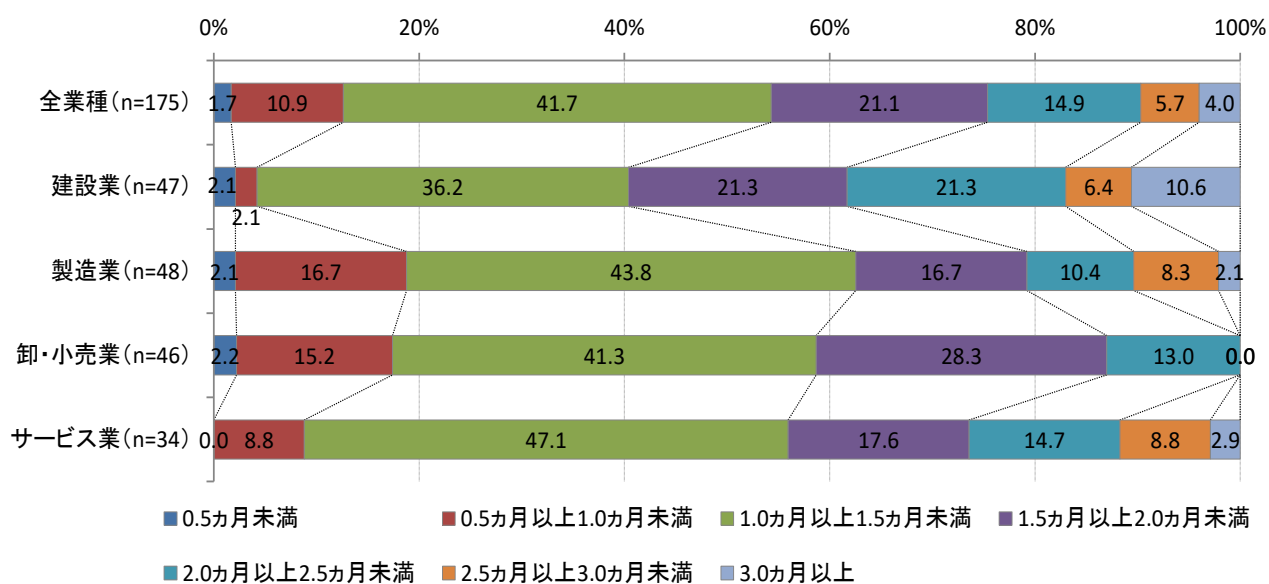


平均支給予定額は、全業種でみると「20 万円以上 30 万円未満」が最も多く、34.9%となっている。
平均支給予定月数は、全業種でみると「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」が最も多く、41.7%となっている。

図表 28 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額



図表 29 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定月数

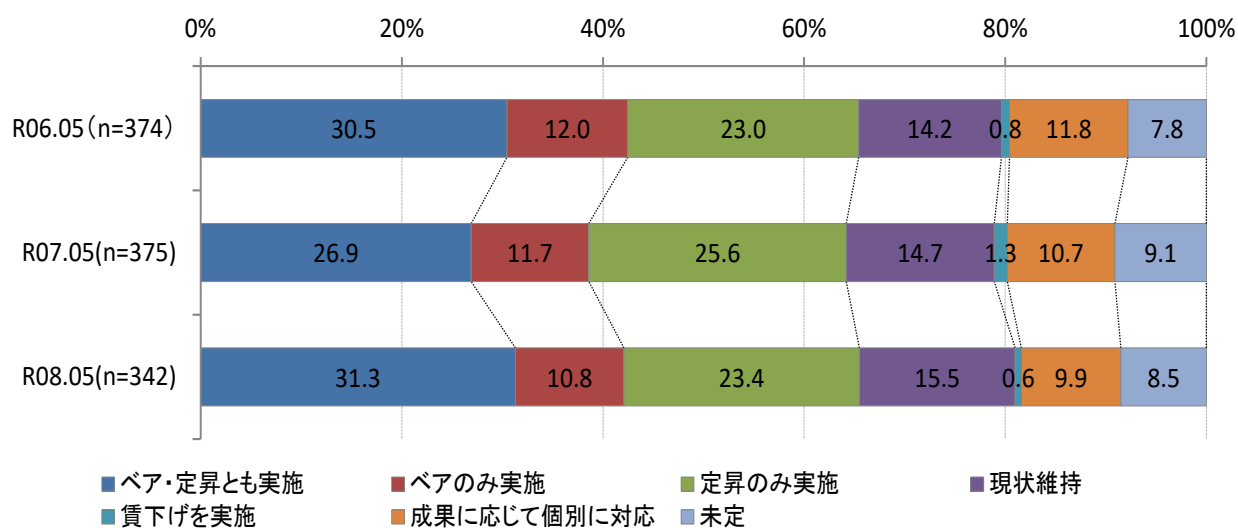


2. 春季以降の賃金改定動向について

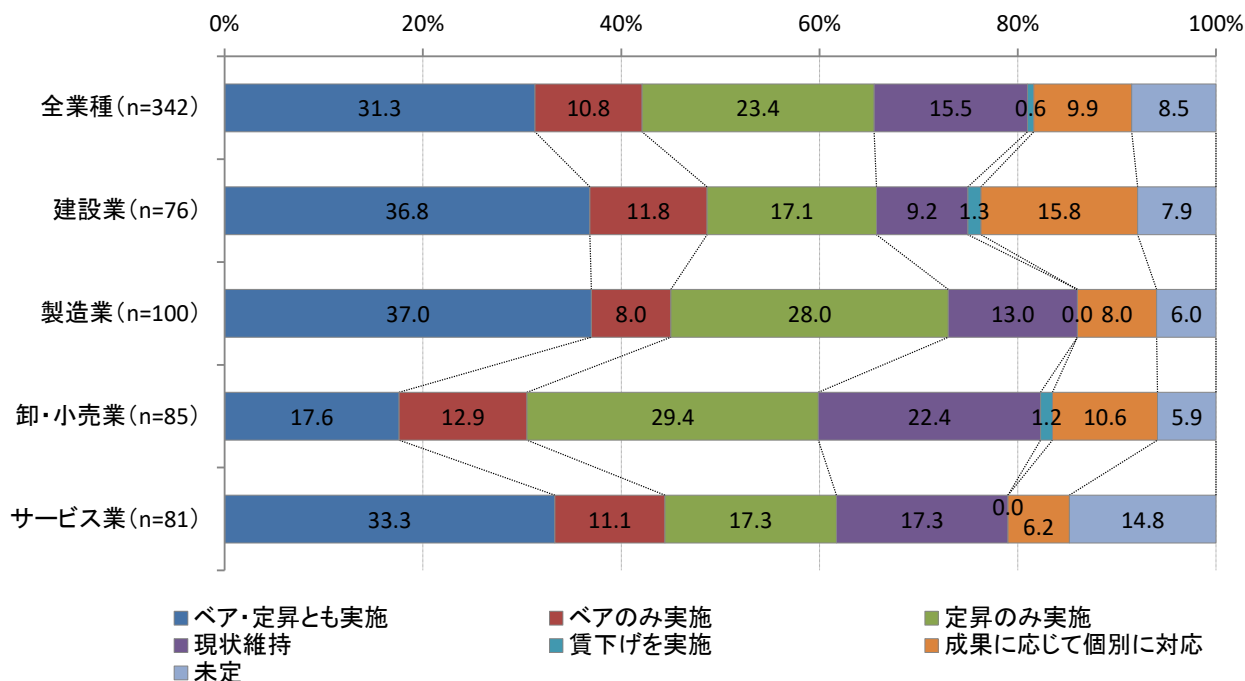
令和 8 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」＋「ベアのみ実施」＋「定昇のみ実施」）は、全業種で 65.5%と前年に比べて 1.3 ポイント上昇し、引き続き 6 割台となった。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は製造業が 73.0%と最も高く、以下は建設業（65.7%）、サービス業（61.7%）、卸・小売業（59.9%）の順となっている。

図表 30 全業種 賃金改定動向の推移



図表 31 業種別 賃金改定動向



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	32	41	47	142
村山北部	20	28	17	17	82
最 上	18	17	8	17	60
置 賜	23	26	22	11	82
庄内田川	29	35	26	26	116
庄内飽海	32	29	31	35	127
合 計	144	167	145	153	609

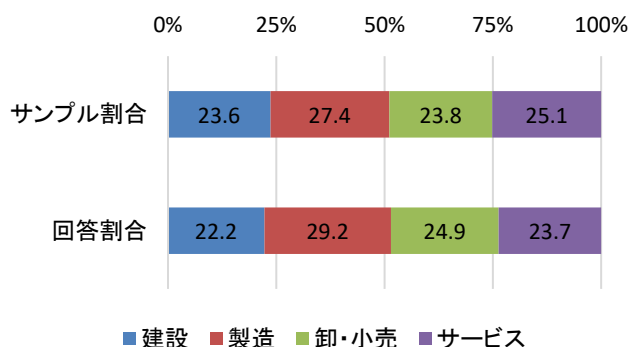
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	15	21	22	30	88
村山北部	7	19	13	9	48
最 上	10	6	6	6	28
置 賜	9	17	8	5	39
庄内田川	20	20	17	15	72
庄内飽海	15	17	19	16	67
合 計	76	100	85	81	342

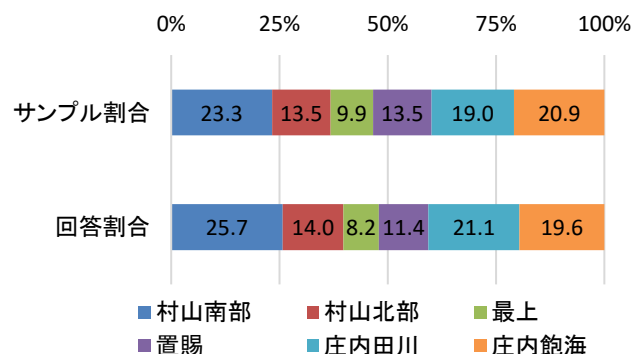
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	68.2	65.6	53.7	63.8	62.0
村山北部	35.0	67.9	76.5	52.9	58.5
最 上	55.6	35.3	75.0	35.3	46.7
置 賜	39.1	65.4	36.4	45.5	47.6
庄内田川	69.0	57.1	65.4	57.7	62.1
庄内飽海	46.9	58.6	61.3	45.7	52.8
合 計	52.8	59.9	58.6	52.9	56.2

(業種別：%)



(地域別：%)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 8 年 5 月 1 日 (金) ~ 15 日 (金)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

本レポートの最新版は当社ホームページ (<https://fir.co.jp/>) からダウンロードすることができます。また、F S N 会員専用ページ (<https://fidea.cns-jp.com/>) では、最新版に加えて過去の調査レポートをダウンロード可能です。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 手塚 綾子 / 小林 直樹

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>